



ミヤリマークは
ジュニアの句・首です。

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の
翌々月の広報うつのみやで入選
作品を発表します。

特選

父^{しの}偲^{しの}ぶ藍^{あいに}の甚^{じん}平^{へい}子がまどふ

岩曾町 金田 智子

●特選の選評 夏が来て、父が生前大好き

だった甚平を着て涼んでいる息子を、母親が笑顔で眺めている様子が目に浮かぶ。上五から、父親を尊敬し懐かしく思う気持ちが伝わってくる。家族のほほ笑ましい暮らしが、絵のようにつづられた一句となった。

俳句



加茂都紀女先生

入選

もみじの葉じよよに色^{いろ}づきまつかつか

緑小学校 元木 楓

帰省子の父と会話の三言ほど

江曾島本町 中村 元吉

夏座敷赤子やっこ寝返りす

中岡本町 中沢 智子

行き交ふ人の青葉に塩の炎天下

山本2丁目 鈴木 豊子

特選

太陽とガチンコ勝負するごとく
カンナは生き生き緋^ひの花眩し

緑2丁目 片嶋 青水

●特選の選評 太陽とガチンコ勝負するよ

うに咲くカンナがとても良い。原色の赤色は誰にも負けないと思える。「かかって来い」と声が聞こえそう。感性が光る。生き生きとした夏の句だ。

短歌



藤本 都先生

入選

よく転び耳遠くなりよく食べる
四月九日八十七歳

日の出1丁目 大島 康正

秋の夜は虫の音色が鳴りひびく
静かな夜に光る満月

姿川第一小学校 佐藤 結惟

満天の星かとまごふ十葉の
四葩^{よひば}の花弁野に満ちをれば

大曾5丁目 岩淵 煦美子

お互いを「ちゃん」付けて呼ぶ仲間達と
食卓囲む傘寿近くして

下栗町 田中 洋子

特選

政治屋のお為倒^{ごか}しのあれやこれ

下田原町 五十嵐 由美子

●特選の選評 お為倒しとは、相手のため

と見せ掛けて自分の利益を追求する行為。政治家が政治屋に成り下がり、選挙では得票のために実現不可能な公約も口走る。そんな政治家もだが、その政治家を選んだ我々も、責任を痛感しなければならない。

川柳



佐藤隆久先生

入選

備蓄米買えず頼みは縁故米

平松本町 川野 和美

傾きて丘虎の尾に母の声

岩曾町 川室 正男

景色より食べてしゃべってバス旅行

清原台6丁目 篠原 富子

歳だからを言わずと決めて今があり

鑑山町 阿久津 昭子

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市HPをご覧ください。

ID 1022877



▲市HP

表

裏

320-8540
住所・氏名・壇名
宇都宮市役所
広報広聴課

作品
作品への思い
作品への思い